



# 2020年3月期第3四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

---

2020年1月  
大阪ガス株式会社

1

大阪ガスの藤田でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の2020年3月期第3四半期決算電話会議説明会にご参加いただきありがとうございます。

また、平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それでは、ただ今より、2020年3月期第3四半期決算について、当社ホームページで開示しております、プレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

4ページをご覧ください。

# 目次

## I. 20.3期第3四半期決算と20.3期見通しの概要

□ 20.3期第3四半期決算及び 20.3期見通しのポイント	- 4	□ 20.3期第3四半期販売実績	- 20
□ 20.3期第3四半期決算の対前年比較	- 5	□ 20.3期販売見通し	- 21
□ 20.3期修正見通しの対前回見通し比較	- 6	□ 家庭用ガス販売	- 22
□ 20.3期修正見通しの対前年比較	- 7	□ 業務用等ガス販売	- 23
□ 20.3期第3四半期の成長投資実績	- 8		
□ 20.3期第3四半期の主なトピックス	- 9-10		

## III. 参考資料

□ 20.3期第3四半期の差異(対前年)	- 25-26
□ 20.3期見通し差異(対前年)	- 27-28
□ 年度見通しに対するリスク要因	- 29

## II. 20.3期第3四半期決算と20.3期見通し

□ 20.3期第3四半期実績	- 12-14
□ 20.3期見通し	- 15-19

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。 <https://www.osakagas.co.jp/company/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m<sup>3</sup>として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

## I. 20.3期第3四半期決算と20.3期見通しの概要

## 20.3期第3四半期決算及び20.3期見通しのポイント

### 2020.3期第3四半期決算 対前年同期比較

売上高	ガス事業における販売単価上昇、電力販売量の増加等により、 <b>前年比3.3%(308億円)増収の9,745億円</b>
経常利益	ガス事業におけるスライド影響、ガス事業費用の減少等により、 <b>前年比133.1%(339億円)増益の593億円</b> <b>スライド差益は77億円(前年同期は161億円のスライド差損)</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	特別損失に海外上流事業における減損損失を計上したが、前年度に特別損失に計上したのれんの一括償却の反動等により、 <b>前年比569.2%(296億円)増益の348億円</b>

### 2020.3期見通し 対前回見通し(2019/10/29)比較

売上高	電力販売量の増加等により、 <b>前回見通し比0.5%(70億円)増収の1兆4,190億円</b>
経常利益	電力事業における減益はあるが、ガス事業費用の減少、営業外損益の増益により、 <b>前回見通しから変更なしの810億円</b> <b>スライド差益は69億円(前回見通しから変更なし)</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	特別損失に海外上流事業における減損損失を計上したことにより、 <b>前回見通し比7.3%(40億円)減益の510億円</b>

4ページには決算のポイントを簡単にまとめております。

当期の連結経常利益は、ガス事業におけるスライド影響やガス事業費用の減少等により、前年から339億円増益の593億円となりました。

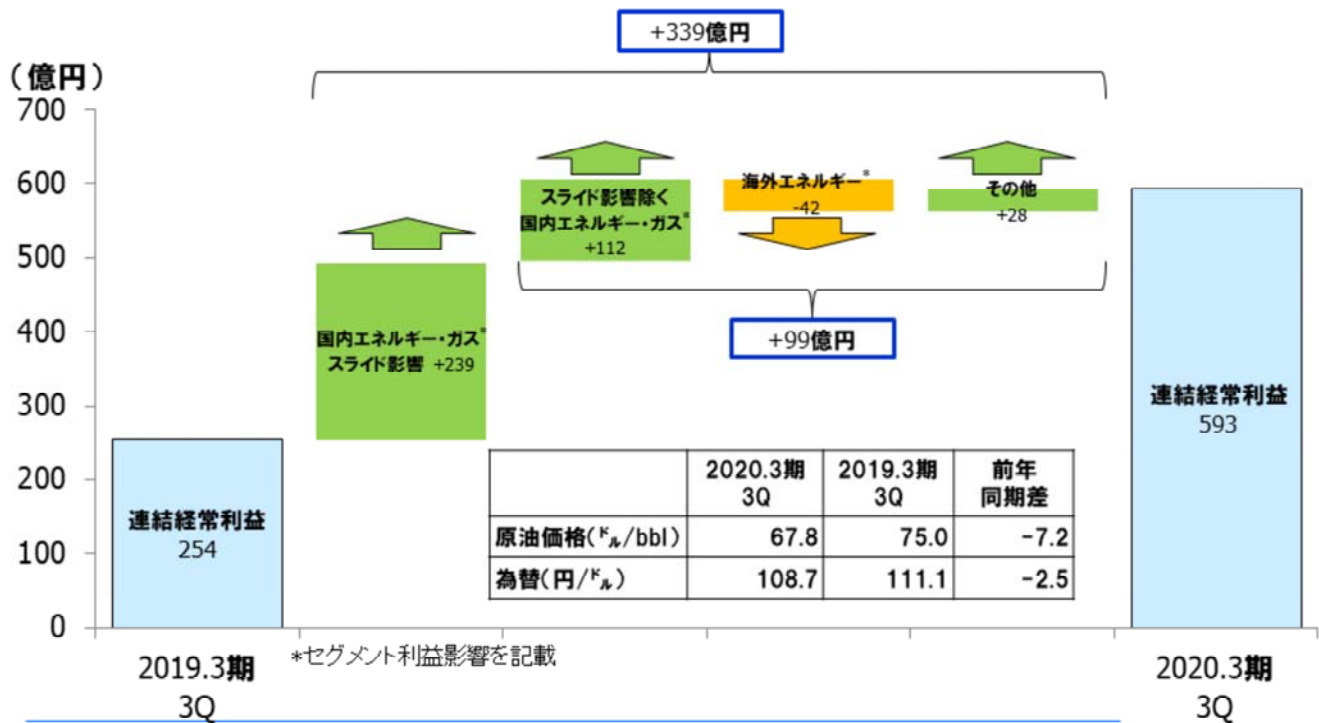
親会社株主に帰属する四半期純利益は、海外上流事業における減損損失の計上がありました。前年度に計上したのれんの一括償却の反動等により、前年から296億円増益の348億円となりました。

連結経常利益の通期見通しは、電力事業における秋・冬の高気温影響等による減益がありますが、ガス事業費用の減少、株式売却による営業外損益の増益等により、前回見通しからの変更はありません。

親会社株主に帰属する当期純利益は、海外上流事業における減損損失の計上により、前回見通しから40億円減益の510億円となる見通しです。

## 20.3期第3四半期決算の対前年比較

2020年3月期第3四半期の連結経常利益は、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響、ガス事業費用の減少による増益等により、対前年+339億円の593億円



5

5ページに、2020年3月期第3四半期の連結経常利益について、前年との比較をまとめています。

当期の連結経常利益は、スライド影響を除きましても、ガス事業費用の減少が、海外エネルギー事業の減益を上回ったこと等により、前年から99億円増益となりました。

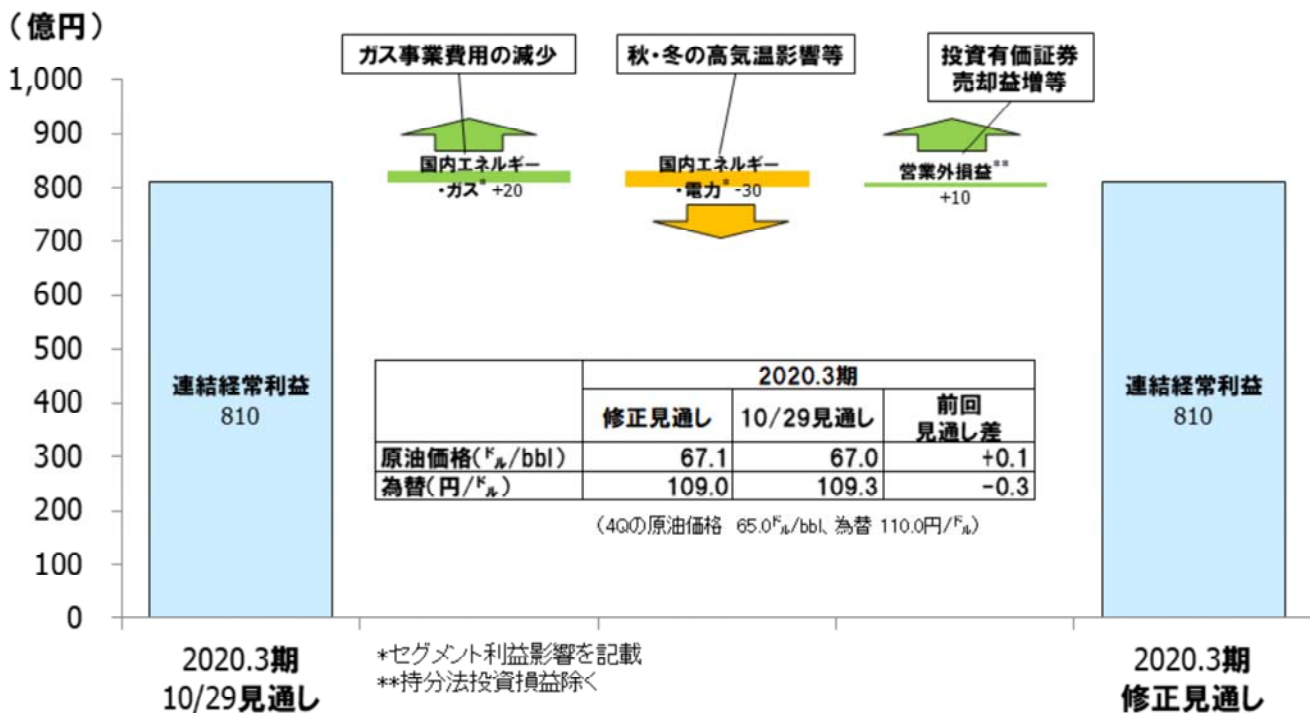
国内エネルギー・ガス事業では、スライド影響による増益が239億円となり、スライド影響以外では、ガス事業費用の減少が、競合影響を上回ったこと等により、前年から112億円の増益となりました。

海外エネルギー事業では、フリーポートLNGプロジェクト関連費用の影響による減益等により、前年から42億円の減益となりました。



## 20.3期修正見通しの対前回見通し比較

2020年3月期の連結経常利益見通しは、国内エネルギー・電力事業における減益はあるが、ガス事業費用の減少、営業外損益の増益により、前回見通しから変更なし



6

6ページは、連結経常利益通期見通しの前回見通しとの比較になります。

先ほどご説明した通り連結経常利益は前回見通しから変更ありませんが、国内エネルギー・ガス、電力のセグメント利益、営業外損益を修正しています。

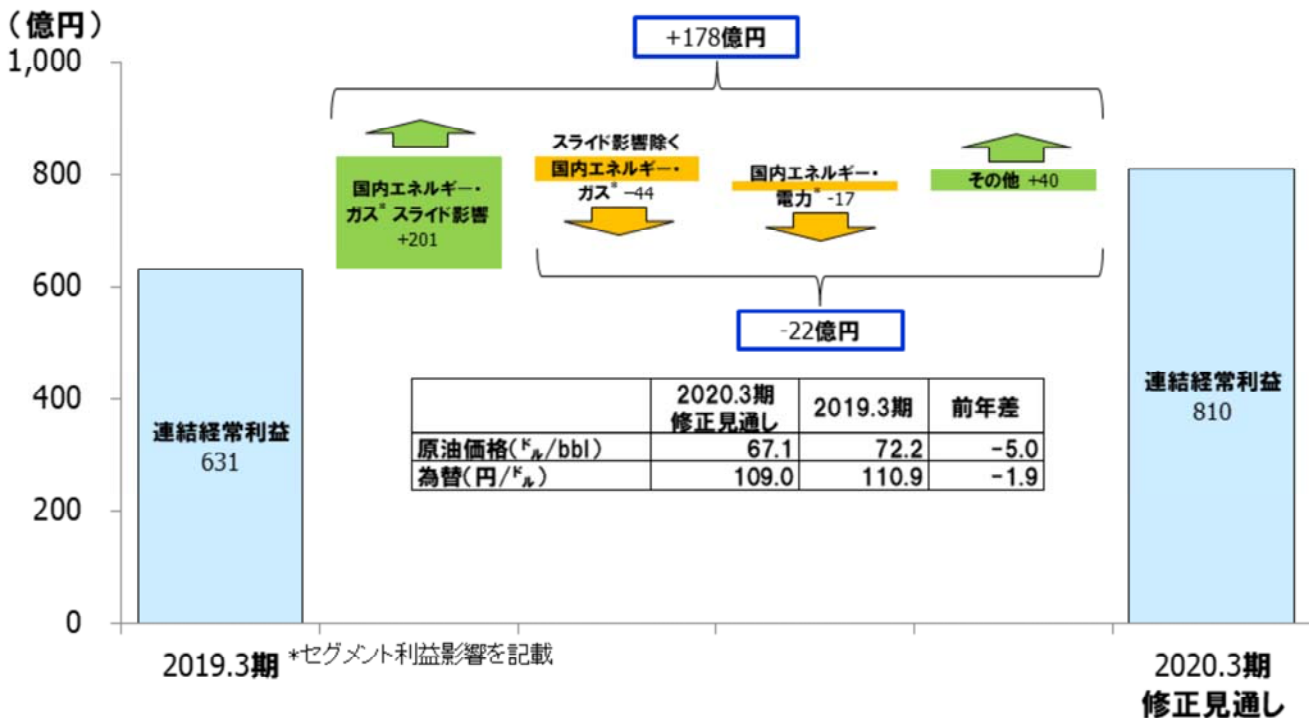
国内エネルギー・ガスセグメント利益は、ガス事業における労務費、諸経費の減少により、前回見通しから20億円の増益となる見通しです。

国内エネルギー・電力セグメント利益は、秋から足元にかけての高気温影響により販売単価が低下すること等により、前回見通しから30億円の減益となる見通しです。

営業外損益は、株式売却による投資有価証券売却益の増加等により、前回見通しから10億円の増益となる見通しです。

## 20.3期修正見通しの対前年比較

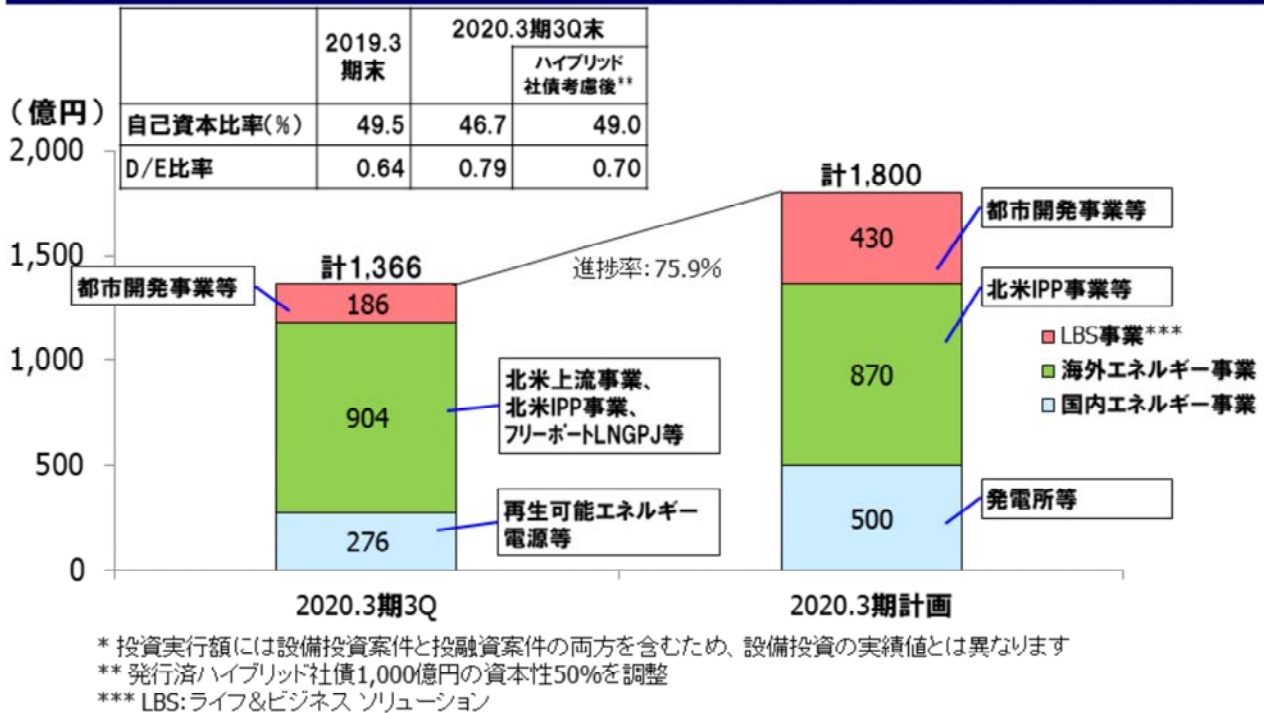
2020年3月期の連結経常利益見通しは、国内エネルギー・ガス事業におけるスライド影響による増益等により、対前年+178億円の810億円



修正見通しと前年との比較を、7ページにまとめていますので、またご覧ください。

## 20.3期第3四半期の成長投資実績

2020年3月期第3四半期は、海外エネルギー事業を中心に1,366億円の成長投資を実行  
 2020年3月期通期の投資計画に対し約76%の進捗  
 財務健全性指標は、ハイブリッド社債調達等により、自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持



8

8ページは成長投資になります。

2020年3月期第3四半期は、北米上流事業会社であるサビン社の全株式取得等、海外エネルギー事業を中心に1,366億円の成長投資を実行し、通期計画1,800億円に対する進捗は約76%となりました。

また、既存のプロジェクトにおいて、フリーポートLNGプロジェクト、フェアビュー天然ガス火力発電所の商業運転が開始しています。

2019年12月末時点で財務健全性指標である自己資本比率は46.7%、D/E比率は0.79となりましたが、一部について資本性が認められるハイブリッド社債を考慮すると、自己資本比率が49.0%、D/E比率が0.70となり、中期経営計画で掲げた自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。



## 20.3期第3四半期の主なトピックス①

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 西沖の山発電所(仮称)新設計画からの撤退</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 業界初の新技術「エアセンサー」搭載のビルトインコンロ「AVANCE(アバンセ)」の発売</li> <li>➢ 太陽光発電の余剰電力買取サービスの開始</li> <li>➢ 「第36回無担保社債200億円」「第37回無担保社債200億円」(国内普通社債)を発行</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 防災科学技術研究所、大阪ガスの包括的連携に関する協定の締結</li> <li>➢ ベトナムにおける天然ガス供給事業会社の設立</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ タイにおける太陽光発電事業会社の設立</li> <li>➢ 新機能を搭載したコンロで手間を省いておいしく調理！ビルトインコンロ「クラスS」の新製品を発売</li> <li>➢ 海外で天然ガスインフラを開発するAGP International Holdings Pte. Ltd.への出資および戦略的協業契約の締結</li> <li>➢ 米国シェールガス開発会社Sabine Oil &amp; Gas Corporationの全株式取得</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ フリーポートLNGプロジェクトにおけるLNG生産開始</li> <li>➢ 消費税法・地方税法の一部改正に伴う、ガス料金の改定</li> <li>➢ 京都市、神戸市との「火災予防啓発の連携に関する協定」の締結</li> <li>➢ 「第38回無担保社債200億円」「第39回無担保社債50億円」「第40回無担保社債100億円」(国内普通社債)を発行</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 消費税法・地方税法の一部改正に伴う、電気料金の改定</li> <li>➢ 2019年度 全社総合防災訓練の実施</li> <li>➢ 一人ひとりの最適に変化し続ける、多世代居住型健康まちづくり『Suita SST』の構想を策定</li> <li>➢ 「ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス」に3年連続で選定</li> <li>➢ 神戸港におけるLNG燃料タグボート「いしん」へのLNG燃料供給トライアルの実施</li> <li>➢ お客さまの楽しく・豊かな暮らしを応援する電気料金メニュー「ウィズプラン」設定と「ウィズradikoプラン」受付開始</li> <li>➢ 兵庫県姫路市における発電事業に関する投資意思決定</li> <li>➢ エネルギー分野における新たな関係会社の設立と当社組織の変更</li> <li>➢ 賃貸契約を効率化する企業間情報連携基盤の商用化に向け協創を加速</li> </ul>

9、10ページに、2020年3月期 第3四半期の主なトピックスをまとめています。

## 20.3期第3四半期の主なトピックス②

10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ FITからの自立化を想定した太陽光発電量予測サービス実現に向けた実証の開始</li> <li>➢ CEATEC2019への初出展～Daigasグループが思い描く2030年の未来の暮らし～</li> <li>➢ 当社がガスヒートポンプエアコンの定期点検業務を委託するメンテナンス会社による不適正な作業（全メンテナンス会社に対する調査結果）</li> <li>➢ 不使用ガス管の不適切な管理</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公募型ハイブリッド社債（公募劣後特約付社債）の発行に関するお知らせ</li> <li>➢ タイ国コージェネレーション設備の高効率化事業 二国間クレジット制度に基づく設備補助事業への採択</li> <li>➢ 大阪ガスケミカル株式会社における公正取引委員会からの排除措置命令および課徴金納付命令</li> <li>➢ ウィズプラン第2弾！めっちゃおもしろい電気料金メニュー「ウィズよしもとプラン」の受付開始</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 公募ハイブリッド社債（劣後特約付社債）の発行条件決定に関するお知らせ</li> <li>➢ フリーポートLNGプロジェクトの商業運転開始</li> <li>➢ 米国フェアビュー天然ガス火力発電所の商業運転開始</li> <li>➢ 英国エネルギー小売事業会社Igloo Energy Supply Ltd.への出資参画</li> <li>➢ 日揮みらいソーラー株式会社の全株式取得</li> </ul>

※プレスリリース実施月を記載

## II. 20.3期第3四半期決算と20.3期見通し

## 20.3期第3四半期実績I

連結：億円( )内は連単倍率	A. 20.3期 3Q	B. 19.3期 3Q	A-B	(A-B)/B(%)	備考
売上高	(1.26) 9,745	(1.25) 9,436	+308	+3.3%	ガス事業における販売単価 上昇、電力販売量増等
営業利益	(1.92) 542	(-) 233	+309	+132.8%	ガス事業におけるスライド影響、 ガス事業費用の減少等
経常利益	(1.49) 593	(7.67) 254	+339	+133.1%	
四半期純利益*	(1.12) 348	(-) 52	+296	+569.2%	海外上流事業の減損損失 計上、前年度ののれんの一括 償却の反動等
EBITDA**	1,262	1,010	+252	+25.0%	
* 親会社株主に帰属する四半期純利益					
** EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費(のれんの一括償却除く)+持分法投資損益					
スライド差損益	+77	-161	+239	-	
スライド差損益控除後 経常利益	515	416	+99	+23.8%	
原油価格***	\$/bbl	67.8	75.0	-7.2	
為替レート	円/\$	108.7	111.1	-2.5	

\*\*\* 20.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

12ページに実績数値をまとめています。

## 20.3期第3四半期実績II

単位: 億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.20.3期 3Q	B.19.3期 3Q	A-B	A.20.3期 3Q	B.19.3期 3Q	A-B	
国内エネルギー・ ガス	6,918	6,874	+44	344	-8	+352	利益: スライド影響、ガス事業費用の減少等
国内エネルギー・ 電力	1,454	1,314	+139	45	52	-6	利益: 販売単価低下、発電所の計画外停止等
海外エネルギー	432	270	+162	35	77	-42	利益: フリーポートLNGPJ関連影響等
ライフ&ビジネス ソリューション	1,568	1,495	+73	134	120	+13	利益: 材料ソリューション事業における増益等
消去又は全社	-629	-518	-111	22	13	+9	
連結	9,745	9,436	+308	583	256	+327	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

内、ヘッジ会計適用外のDV時価評価影響  
20.3期3Q -36, 19.3期3Q +10, 前年差 -46

13ページはセグメント別になります。



## 20.3期第3四半期実績III

連結:億円	A. 20.3期 3Q末	19.3期 3Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	21,255	20,324	20,297	+958	北米上流事業会社の新規連結等
自己資本	9,925	9,824	10,043	-117	
有利子負債	7,814	6,884	6,474	+1,339	社債発行等
在籍人員(人)	20,519	20,420	20,224	+295	オーグス総研G、Jacobi等
自己資本比率	46.7%	48.3%	49.5%	-2.8%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(49.0%)	(48.3%)	(49.5%)	(-0.5%)	社債発行に伴う有利子負債の増加等
D/E比率	0.79	0.70	0.64	+0.14	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.70)	(0.70)	(0.64)	(+0.06)	

\*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

連結:億円	A. 20.3期 3Q	B. 19.3期 3Q	A-B	備考
設備投資	807	810	-2	
減価償却費	679	754	-74	前年度のれん一括償却の反動等
フリーキャッシュフロー**	549	-472	+1,022	運転資本の減少、四半期純利益増等

\*\*フリーキャッシュフロー=営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-品質向上投資による支出

14ページでは、資産、負債等について整理しています。

フリーキャッシュフローは、運転資本の減少等により、前年から1,022億円増加の、549億円となりました。

## 20.3期見通しI

連結：億円 ( ()内は連単倍率)	A. 20.3期 見通し	B. 20.3期 10/29見通し	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.25) 14,190	(1.26) 14,120	+70	+0.5%	電力販売量増等
営業利益	(1.83) 840	(1.81) 850	-10	-1.2%	電力事業における秋・冬の 高気温影響等
経常利益	(1.43) 810	(1.43) 810	-	-	ガス事業費用の減少、投資有 価証券売却益等
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.19) 510	(1.28) 550	-40	-7.3%	海外上流事業の減損損失 計上
EBITDA*	1,732	1,742	-10	-0.6%	
スライド差損益	69	69	-	-	
スライド差損益控除後 経常利益	740	740	-	-	
原油価格**	\$/bbl 67.1	67.0	+0.1		4Q 65.0\$/bbl
為替レート	円/\$ 109.0	109.3	-0.3		4Q 110.0円/\$

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 + 持分法投資損益

\*\* 20.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

15ページから19ページは、見通し関連をまとめています。

## 20.3期見通しII

単位:億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.20.3期 見通し	B.20.3期 10/29見通し	A-B	A.20.3期 見通し	B.20.3期 10/29見通し	A-B	
国内エネルギー・ ガス	10,155	10,155	-	515	495	+20	利益:ガス事業費用の減少等
国内エネルギー・ 電力	2,110	2,040	+70	70	100	-30	利益:秋・冬の高気温影響等
海外エネルギー	555	555	-	65	65	-	
ライフ&ビジネス ソリューション	2,160	2,160	-	200	200	-	
消去又は全社	-790	-790	-	15	15	-	
<b>連結</b>	<b>14,190</b>	<b>14,120</b>	<b>+70</b>	<b>865</b>	<b>875</b>	<b>-10</b>	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益

## 20.3期見通しIII

連結：億円 ( ()内は連単倍率)	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	(A-B) / B (%)	備考
売上高	(1.25) 14,190	(1.24) 13,718	+471	+3.4%	電力販売量増等
営業利益	(1.83) 840	(2.43) 679	+160	+23.6%	ガス事業におけるスライド影響等
経常利益	(1.43) 810	(1.56) 631	+178	+28.4%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	(1.19) 510	(1.34) 336	+173	+51.8%	前年度ののれんの一括償却、 災害損失の反動等
EBITDA*	1,732	1,599	+132	+8.3%	
スライド差損益	69	-132	+201	-	
スライド差損益控除後 経常利益	740	763	-22	-3.0%	
原油価格**	\$/bbl 67.1	72.2	-5.0	4Q 65.0\$/bbl	
為替レート	円/\$ 109.0	110.9	-1.9	4Q 110.0円/\$	

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 (のれんの一括償却除く) + 持分法投資損益

\*\* 20.3期3Q原油価格実績は、12月速報値までの平均

## 20.3期見通しIV

単位: 億円	売上高			セグメント損益*			備考
	A.20.3期 見通し	B.19.3期	A-B	A.20.3期 見通し	B.19.3期	A-B	
国内エネルギー・ ガス	10,155	10,126	+28	515	358	+156	利益: スライド影響等
国内エネルギー・ 電力	2,110	1,843	+266	70	87	-17	利益: 販売単価低下、発電所の 計画外停止等
海外エネルギー	555	404	+150	65	59	+5	利益: 前年並
ライフ&ビジネス ソリューション	2,160	2,109	+50	200	177	+22	利益: 材料ソリューション事業の増益 等
消去又は全社	-790	-764	-25	15	8	+6	
<b>連結</b>	<b>14,190</b>	<b>13,718</b>	<b>+471</b>	<b>865</b>	<b>690</b>	<b>+174</b>	

\* セグメント損益=営業損益+持分法投資損益



## 20.3期見通しV

連結:億円	A. 20.3期末 見通し	B. 19.3期末	A-B	備考
総資産	22,346	20,297	+2,048	成長投資の増等
自己資本	10,386	10,043	+342	
有利子負債	7,920	6,474	+1,445	新規借入等
在籍人員	20,788	20,224	+564	オーシス総研G、Jacobi等
自己資本比率	46.5%	49.5%	-3.0%	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(48.7%)	(49.5%)	(-0.8%)	有利子負債の増加等
D/E比率	0.76	0.64	+0.12	
(ハイブリッド社債考慮後*)	(0.68)	(0.64)	(+0.04)	

\*発行済ハイブリッド社債1,000億円の資本性50%を調整

連結:億円	A. 20.3期 見通し	B. 19.3期	A-B	
設備投資	1,450	1,072	+377	成長投資の増等
減価償却費	866	997	-130	
フリーキャッシュフロー**	816	209	+607	運転資本の減少等
ROA	2.4%	1.7%	+0.7%	
ROE	5.0%	3.4%	+1.6%	
EPS(円/株)	122.7	80.8	+41.8	
BPS(円/株)	2,497.7	2,415.4	+82.4	

\*\* フリーキャッシュフロー= 営業活動によるキャッシュ・フロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-品質向上投資による支出

## 20.3期第3四半期販売実績

### ■ ガス販売

\*ガス供給件数=取付メーター数 - 閉栓中メーター数(空家等) - 他社ガス供給件数  
 \*\*用途別の差異要因はP.22・23に記載

45MJ/m <sup>3</sup>		A. 20.3期3Q	B. 19.3期3Q	A-B	(A-B)/B (%)
個	ガス供給件数(千件、期末時点)*	5,287	5,626	-339	-6.0%
	新設工事件数(千件)	73	67	+6	+8.8%
	家庭用1戸当り販売量(m <sup>3</sup> /月)	23.2	22.2	+1.0	+4.6%
別	家庭用**	1,077	1,105	-28	-2.5%
	業務用等**	4,114	4,471	-357	-8.0%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		5,191	5,576	-385	-6.9%
連結ガス販売量		5,220	5,602	-381	-6.8%

### ■ 電力販売(連結)

		A. 20.3期3Q	B. 19.3期3Q	A-B	(A-B)/B (%)
小売	卸等	3,137	2,299	+838	+36.5%
	卸等	6,268	6,203	+65	+1.0%
国内電力販売量(百万kWh)		9,405	8,502	+903	+10.6%
低圧電気供給件数(千件、期末時点)		1,241	857	+384	+44.8%

### ■ お客さまアカウント(連結)

		A. 20.3期3Q末	B. 19.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)		902	875	+28	+3.2%

20

20ページは、販売実績をまとめています。

2020年3月期第3四半期の連結ガス販売量は、主に個別における業務用等の減少により、前年から6.8%減少の52億2千万m<sup>3</sup>となりました。

個別家庭用は、春先、夏場の気水温が低く推移し、給湯・暖房需要が増加しましたが、他社へのスイッチング影響等が上回り、前年から2.5%減少の10億7千7百万m<sup>3</sup>となりました。

業務用等は、他社へのスイッチング影響、お客さま先の設備稼働減等により、前年から8.0%減少の41億1千4百万m<sup>3</sup>となりました。

電力販売量は、小売、卸等の販売量が共に増加したことにより、前年から10.6%増加の94億5百万kWhとなりました。

低圧電気供給件数は、2019年12月末時点で124万1千件となり、1月29日時点では、125万件超となりました。

お客さまアカウント数は、ガス事業での離脱影響はありましたが、びわこブルーエナジーの事業開始、電力小売契約の獲得等により、2019年3月末から28万件増の902万件となり、計画として掲げた900万件に達しました。

## 20.3期販売見通し

ガス販売、お客さまアカウントの通期見通しは  
2019年10月発表時から変更ありません。

\*用途別の差異要因はP.22・23に記載

■ ガス販売 45MJ/m <sup>3</sup>		A. 20.3期見通し	B. 19.3期実績	A-B	(A-B)/B (%)
個	家庭用*	1,824	1,892	-67	-3.6%
別	業務用等*	5,736	6,010	-274	-4.6%
ガス販売量合計(百万m <sup>3</sup> )		7,560	7,901	-341	-4.3%
連結ガス販売量		7,599	7,935	-336	-4.2%

■ 電力販売(連結)	20.3期見通し		B. 19.3期実績	A-B	(A-B)/B (%)
	10/29見通し	A. 見通し			
国内電力販売量(百万kWh)	12,148	13,172	11,653	+1,519	+13.0%

■ お客さまアカウント(連結)	A. 20.3期末 見通し	B. 19.3期末	A-B	(A-B)/B (%)
お客さまアカウント数(万件)	900	875	+26	+2.9%

21ページは、2020年3月期の販売見通しになります。

2020年3月期の国内電力販売量は、卸等の販売量が増加することにより、前回見通しから10億2千4百万kWh、前年度から15億1千9百万kWh増加の、131億7千2百万kWhとなる見通しです。

その他の見通しについて、前回見通しからの変更はありません。

以上で、私からの説明を終わらせていただきます。

**家庭用ガス販売 20.3期第3四半期実績、20.3期見通し**

## 20.3期3Q実績

	対前期	備考
調定件数	-4.7%	他社へのスイッチング等
気水温影響	+4.3%	平均気温20.7度(対前年同期 -0.2度)
その他	-2.1%	ガス機器の高効率化、世帯人数減少等
合計	-2.5%	



## 20.3期見通し

通期見通しは2019年10月発表時から変更ありません。

- 平年気温を前提とし、離脱影響、前年度の高気水温影響の反動等を織込むことで、前年比-3.6%、67百万m<sup>3</sup>減の1,824百万m<sup>3</sup>を見込む。

# 業務用等ガス販売 20.3期第3四半期実績、20.3期見通し

## 20.3期3Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.2%	設備導入、燃料転換等
気水温影響	+0.1%	
設備稼働増減	-1.9%	
個別要因	-7.2%	他社へのスイッチング、特定のお客さま先での減少等
その他	-0.2%	
合計	-8.0%	



## 20.3期見通し

通期見通しは2019年10月発表時から変更ありません。

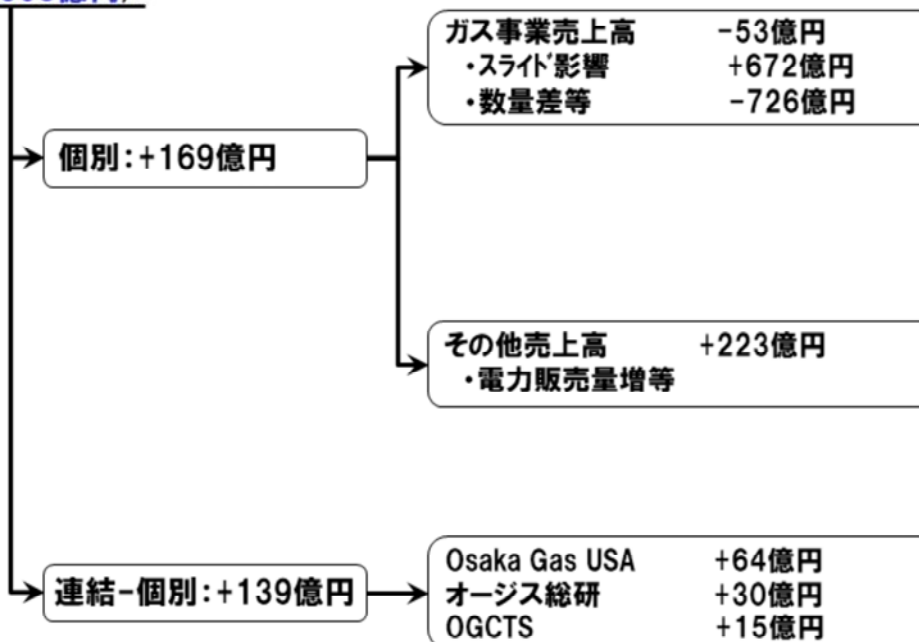
- 離脱影響、特定のお客さま先での減少等を織り込むことで、前年比-4.6%、274百万m<sup>3</sup>減の5,736百万m<sup>3</sup>を見込む。



### III. 参考資料

## 20.3期第3四半期の売上高差異(対前年)

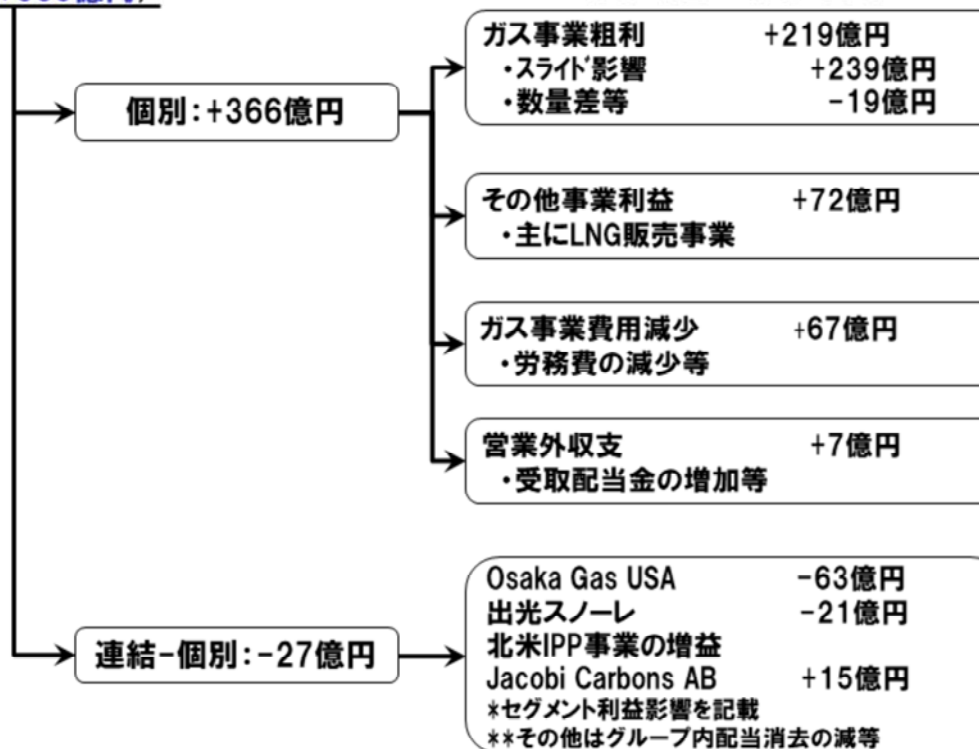
19.3期3Q → 20.3期3Q (差異)  
 9,436億円      9,745億円 (+308億円)



## 20.3期第3四半期の経常利益差異(対前年)

19.3期3Q → 20.3期3Q (差異)  
 254億円 → 593億円 (+339億円)

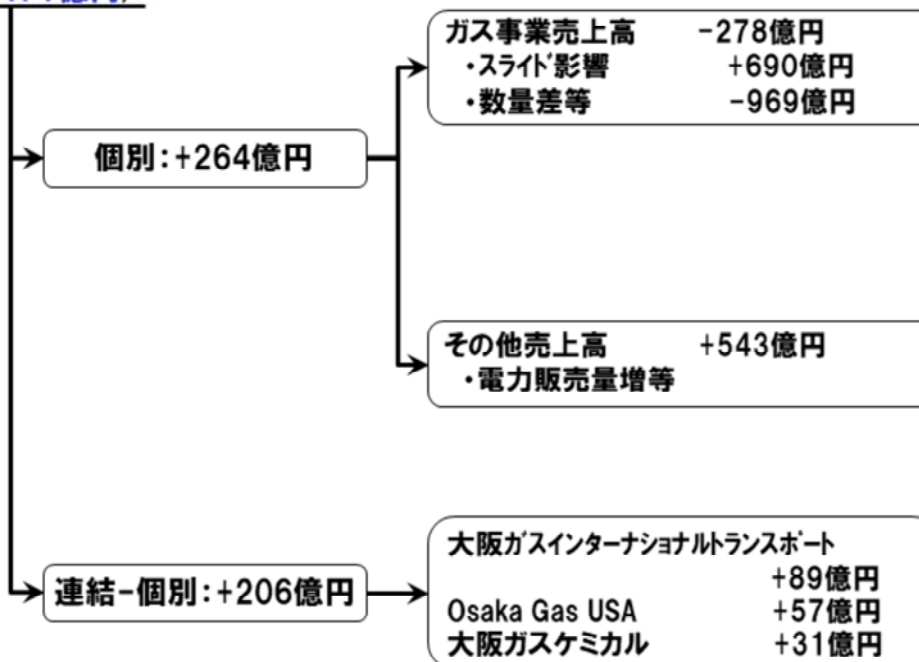
+-の符号は利益への影響を表す。



## 20.3期の売上高見通し差異(対前年)

19.3期 → 20.3期見通し (差異)

13,718億円 14,190億円 (+471億円)

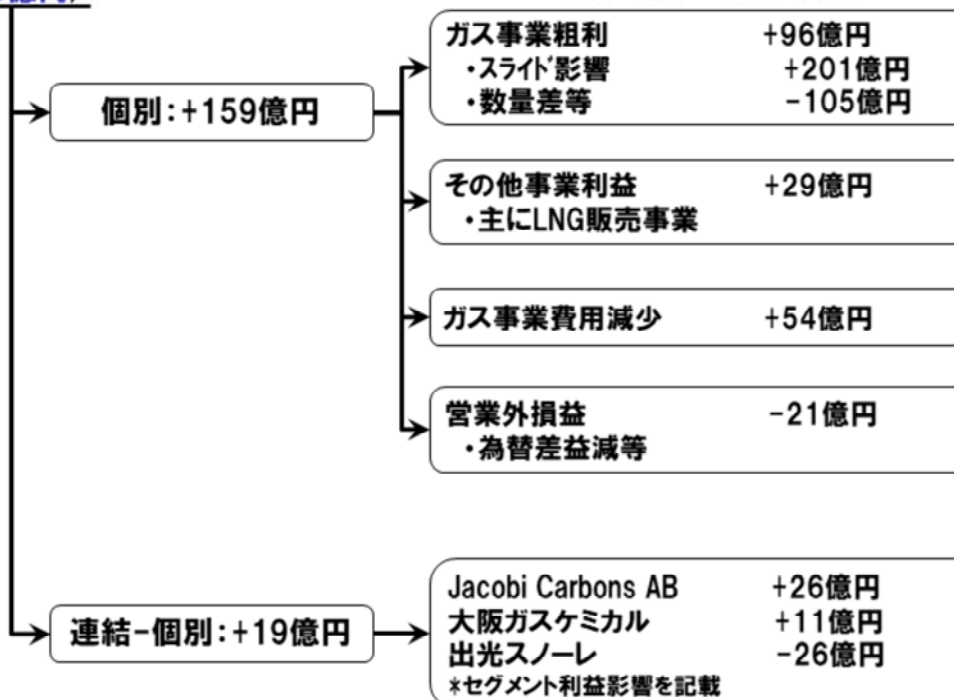


## 20.3期の経常利益見通し差異(対前年)

19.3期 → 20.3期見通し (差異)

631億円 810億円 (+178億円)

+-の符号は利益への影響を表す。



## 年度見通しに対するリスク要因

### ■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

### ■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、20.3期の連結経常利益は約-0億円変動する可能性がある。

### ■ 為替レート

- LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、20.3期の連結経常利益は-9億円変動する可能性がある。

### ■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

### ■ 金利

- 金利+1%の変動に対し、20.3期の連結営業外費用が年間+19億円変動する可能性がある。



以 上